

令和3年度全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

今年度、全国の6年生を対象に実施されました、全国学力・学習状況調査の、本校の調査結果の概要をお知らせいたします。

1 教科別学習状況調査の結果

(1) 平均正答率と主な成果

	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率(%)	平均正答数	平均正答率(%)
横浜市立平沼小学校	9.5 / 14	68	11.9 / 16	74
神奈川県(公立)	8.8 / 14	63	11.3 / 16	70
全国(公立)	9.1 / 14	64.7	11.2 / 16	70.2

(2) 主な成果

- 「国語」「算数」双方において、全国・神奈川県の平均よりも上回る結果となっています。
- 以下の設問題は、全国平均よりも本校の平均正答率が5%以上高い正答率でした。

各教科の問題番号と出題の趣旨を記載します。

【国語】

- 2二 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う
- 2三 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける
- 2四 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する
- 3一 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える
- 3二 目的や意図に応じて理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する
- 3三(2)オ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える

【算数】

- 1(2) 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる
- 1(3) 速さを求める除法の式と商の意味を理解している
- 2(1) 三角形の面積の求め方について理解している
- 3(3) データを二次元の表に分類整理することができる
- 3(4) 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる
- 4(2) 商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる

(3) 主な課題

- 国語で16問中12問、算数で14問中9問、無解答率が全国平均を上回っていました。
- 以下の設問題は、全国平均よりも本校の平均正答率が下回っていました。

【国語】

- 3三(1)アウエ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
→「転がる」「積み」「原因」を漢字で書く問題でした。

【算数】

- 1(1) 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる
- 3(1) 棒グラフから、数量を読み取ることができる

2 今後の取組について

【国語】

- (1) 漢字を書く問題が、3問中3問とも、全国平均を下回りました。また、3問とも、無解答率も高くなっていました。その他の語句の意味や文章を書く力を問う設問については概ね高い平均だったため、漢字の書き取りが課題であることが際立ちました。週3回のドリルタイムの取り組み方や新出漢字の学習の仕方、宿題での漢字練習の取組等を学校全体で見直し、基礎・基本の定着を改めて大切にしていきます。
- (2) 正答率は高くなっていましたが、【3二】の「理由を明確にして文章を書く」設問については、無解答率が約 14% でした。全体的にも、「書く」ことを伴う設問について、無解答率が高い傾向が見られます。日頃から、目的や意図に応じて、自分の考えを、理由を明確にして書くことを大切にしていきます。また学校全体として、系統立てた取り組みについても、より一層大切にしていきます。

【算数】

- (1) 全国平均を下回った設問の共通点は「目的に応じた数値を資料から読み取り、選ぶことです。どちらも低～中学年で学習する内容ではありますが、算数に限らず、数値を読み取る力は様々な学習や生活場面でも必要となる力です。算数の学習場面に限らず、日頃の生活の中においても、目的に応じて必要な数値を選ぶこと、正しく読み取ることを、今後はより一層大切にしていきます。
- (2) 国語と同様に、記述を伴う問題、特に3(4)では、無解答率が約 13%と、高くなっていました。算数の授業の中でも、考えやその根拠をノートに記述するなどの取組を、これからも大切にしていきます。

3 学習習慣・生活習慣の特徴的な結果と今後の改善策について ※ () 内は全国平均。

【学習に関すること】

- 国語・算数ともに、「国語(算数)の勉強は好きですか」という問いについて、全国平均よりも高い関心が見られました。また「国語(算数)の勉強は大切だと思いますか」についてはどちらも90%以上の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答していました。今後も引き続き、学習への前向きな姿勢を大切にしつつ、個々の課題に丁寧にとりながら、主体的・対話的に学ぶことができる授業づくりを進めていきます。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という問いには、73.1%(78.8)の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答え、全国平均をやや下回りました。感染症対策などで難しい部分もありますが、平沼小が大切にしてきた「対話的な学び」について、今後、子どもたちが学びの達成感を味わえるように形態を工夫しながら、授業を進めていきます。
- 「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものをつくり出したりする活動を行っていましたか」という問いには75%(67.2)が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答え、全国平均を大きく上回りました。総合的な学習の時間をはじめ、日頃から教科を横断的に学んでいけるように、カリキュラムマネジメントを進め、豊かな学びのある授業づくりを目指していきます。

【生活に関すること】

- 「朝食を毎日食べる」「毎日、同じくらいの時刻に寝る」「毎日、同じくらいの時刻に起きる」の問いに対して、いずれも「している」「どちらかといえばしている」と答えた回答率が、全国平均よりも高くなっていました。規則正しい生活は、学力向上につながっていきます。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」の問いには67.3%(76.9)の児童が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答え、全国平均を大きく下回っていました。自分のよいところに気付き、自己有用感を高めていけるような活動を、今後はより大切にしていきます。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して、ほぼ全ての児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えました。いじめは絶対にあってはならないことであるという徹底した指導を引き続き行っていくとともに、困ったことがあったら相談できる人間関係づくりを大切にしていきます。
- 「学校に行くのは楽しいですか」という問いでは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童が合わせて82.7%(83.4)に上りました。全児童が「楽しい」と思える学校を、今後も目指していきます。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という問いでは、69.2%(58.1)が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えました。感染症対策で、学校行事も通例通りに実施できない中、改めて平沼の地域のあたたかさや団結力の高さを感じます。ありがとうございます。今後も地域、ご家庭のご支援・ご協力をお願いします。